

第3回「同窓会在り方検討委員会」記録

2019/04/21

10:00～

岩教大大会議室

□ 検討委員

出欠	役職	氏名	役職（道青陵）	備考
○	委員長	石塚 信彦	副会長	
×	副委員長	大石 良明	OB会	
○	委員	島貫 修	札幌支部事務局次長	
○	委員	菅原 聡	石狩支部事務局長	
○	委員	畠山 和彦	空知青陵会事務局長	
×	委員	佐藤 直輝	公務員・民間部会事務局長	
×	委員	竹下 真也	公務員・民間部会会計	
○	委員	伊藤 祐輔	理事長	
○	委員	米本 智	副理事長	
○		早瀬 公平	会長	

1. 開 会（伊藤理事長）

2. 会長挨拶

- ・ 今後の同窓会のあり方については、昨年の北教大5校会長・理事長会議でも話題となっており、それぞれ危機感を持っているという実態がある。札幌校でも昨年検討委員会を立ち上げ、検討が始まっている。
- ・ 我が同窓会も支部の会員数や活動に差があり、活動が停滞しているところある。
- ・ 今後、たくさんの会員の意見を聴き、10年後、20年後の同窓会のあるべき姿を模索していきたいと考えている。

3. 議 事（進行 石塚委員長）

（1）経過報告

- ・ 8/11（土）第1回「同窓会在り方検討委員会」
 - ・ 早瀬会長より検討委員会立ち上げの趣旨説明
 - ・ 正副委員長選出
 - ・ 会長諮問事項の確認
 - ・ 現状の把握と意見交流
 - ・ 今後検討する事項、ワーキンググループへの依頼内容検討
- ・ 9/ 5（水）第1回ワーキンググループ会議
 - ・ 検討委員会からの依頼事項確認
（会員の現状、支部の活動状況、他大学や高校の同窓会組織）
- ・ 11/17（土）第2回「同窓会在り方検討委員会」
 - ・ 会員の定義
 - ・ 教員以外の会員の把握と入会
 - ・ 各支部の運営、活動
 - ・ 道本部と支部の関係 等

(2) 「中間報告」の検討協議 (別紙)

※説明文等の記載事項について内容等検討する。

○「理事長からの前段説明」

- ・「在り方検討委員会」委員構成で公務員・民間部会からさらに1名追加で検討委員を選出したことを追加する。

○「石塚委員長からの報告」

- ・「会員の定義を見直す」という文言について、会則で「全ての卒業生等・・・」と明記されているので、ここで検討することは、改めて会員の考え方の意識を変える必要があり、その観点からも同窓会を見直すという内容にする。
- ・公務員・民間部会はすでに設置されており、活動もされているので、ここでは、同窓会を根本から見直す必要がある、という内容にする。

○「中間報告」

●1点目

- ・1行目、「会員の定義」はすでに会則に明記されているので、ここでは、会員の意識を変える必要がある、という文言に変える。
- ・3行目、「規則」は「会則」に変更。

●2点目

- ・同窓会の入会については、大学入学時に会費を徴収する方法が考えられ、他大学でもこの方法がとられている。
- ・すでに卒業し、教員あるいは民間等で働いているものには、年会費を徴収しているが、卒業生全員が収めているわけではない。60%ぐらいしか収めていない支部もあつたり、民間等からほとんど徴収できていない。

●5点目

- ・名簿については、卒業期別に作成することが望ましいのではないかと。

○全体をとおして

- ・5点の報告にまとめてあるが、分かりやすいように小見出しをつける。
- ・問題や課題だけではなく、具体的な方策も数点盛り込むと良い。
- ・大学入学時に同窓会費を徴収する方法は、大学側や他の学校（北教大）の同窓会にも提案している。
- ・今後の支部の動きはどう考えたらいいのか。
→道青陵本部の改革に沿って、支部も対応していくことになるだろう。
- ・名簿については4年後の北海道青陵会100周年を控え、内容検討、作成に取りかかる必要がある。
- ・総会は、事前に理事会を行い、総会議案を検討し、総会を短時間で行い、その後懇親会を行うという流れも考えられるのではないかと。

4. 今後の予定

- ・5月の総会で中間報告をし、8月の総会までに各会員、支部等からの意見を集約する。
- ・総会での「同窓会在り方検討委員会 中間報告」は会長諮問事項、設置要項も併せて添付する。
- ・8月の研究大会で、シンポジウムを開催し、たくさんの意見を吸い上げとともに検討する場面を設ける。
- ・研究大会後、検討委員会で、具体策を検討していく。